

## 仏さまのはなし

## 響流

～ KOURU ～

発行所

茨城東組事務局  
茨城県常陸太田市  
久米町20-1  
正念寺内

## 大事・大事・一大事

浄光寺住職 枝川重樹

日本語とは難しく、使い方によっては人を傷つけてしまうことがあるようです。「大事」という言葉は「だいじ」と「おおごと」と読む事が出来ますが、全く意味が変わってきます。文章にするとそれは明らかで、「親をだいにしましょう」と「親をおおごとにしましょう」では聞く人は心配してくれているのか考えてしまうでしょう。

では、「一大事」の意味とはどのような意味があるのでしょうか。辞書には重大な事件・出来事、容易でない事態とあります。さらに調べてみると、一大事の語源・由来は仏教にある事が分かります。一大事とはもともと仏が衆生救済のために、この世に現れるという重大事を意味する言葉でした。これを一大事因縁とも言います。この一大事が一般に広まり、現在では重大な出来事、特に悪い事態の場合に用いられるようになりました。

蓮如上人は、「後生の一大事を心にかけて」と繰り返し教えられ



蓮如上人絵像

ます。後生とは「ごせ」ともいわれ、今生・現世に対して言われる言葉です。「仏教では、後生、後生といって死んだ先のことばかり言うから若い人に嫌われるのだ。もっと現実的に生きている現在のことを教えなくては現代に通用しない」とよく言われます。では人生が「旅」だとします。この人生の行きつく先はどこでしょうか。真つ暗闇の世界で終わるのででしょうか。たとえば外国旅行に出かけ楽しく過ごしていても、やがて旅行が終わって帰って国と家庭が無かったらどうでしょうか。楽しく安心して旅しておれないでしょう。

人生の旅は必ず終わります。いつ終わるか、明日かも知れない。そう考えると後生は遠い先の話ではなく、今日のただ今が「後生」、即ち最後の大切な一瞬一瞬の一大事の時を生きているのでありましょう。私たちは死を目の当たりにした時、阿弥陀仏の願いを聞く中で、生きていることの有り難さ、素晴らしさに目覚めるので

しょう。人生は、逃げることでできない老・病・死があります。阿弥陀の法に触れる中で、帰るべき世界を明からにする。そこに本当の意味で「現在の生」を大切に生きることになるでしょう。

## お寺紹介

## 第3回



〒315-0058 かすみがうら市下土田 1413



江戸末期、この地を治めていた藩主は、農作物の生産量を増やすために、荒地の開墾を行いました。開墾にあたる人手は、稲作技術もあり勤勉と評判の高い、北陸地方のひとを招き入れる事にしました。その移住してきた人の多くは浄土真宗の門徒でした。ところがこの地には浄土真宗のお寺がありませんでしたので、定着せずに帰ってしまった人もいたそうです。藩では移住者をとどめるため、お寺を創ることにしました。天保2年(1831)5月1日、築地御坊の布教所・往西寺の誕生です。親鸞聖人が関東教化されたのが今から約800年前、念仏の教えは東海、北陸へと広まりました。そして北陸のご門徒が、茨城の念仏の届いていないこの地に来て、真宗寺院が出来ました。まことに不思議なご縁を感じます。

現在本堂を建設中なので客殿に阿弥陀様を安置して、仮本堂にしています。そのため、報恩講や永代経法要はお休みしています。完成予定は



建設中の本堂

来年、平成29年秋です。日常では毎朝お朝事をおつとめています。6時より梵鐘を撞いて、仮本堂にて正信偈六首引き(繰り読み)を本山に合わせて読んでいます。その後に住職の感話を聞き、最後にラジオ体操をして終わりです。常例法座では毎月第3土曜日の午後1時半より3時まで、お勤めは「讃仏偈」、領解文、生活信条を唱和します。その後に住職によるお経の話、日常の仏事、お釈迦さま、親鸞さまの話、その関連のビデオやインターネットで探した資料を駆使して、お話を

されます。3時から4時まで席を変えて茶話会をしています。今日の話の質問や、自分の悩み等を出して頂き、和やかに歓談しています。楽しいひとときです。それから11月の築地本願寺の報恩講にバスで参拝します。5月の降誕会にも参拝しました。

最後になりましたが、本堂の完成を待ちわびています今日この頃です。

門徒推進委員 安永昭二(釋伍忍) 合掌



茶話会の様子

はじめての仏事

第3回

# 作法のいろは

浄妙寺副住職 那須 信行

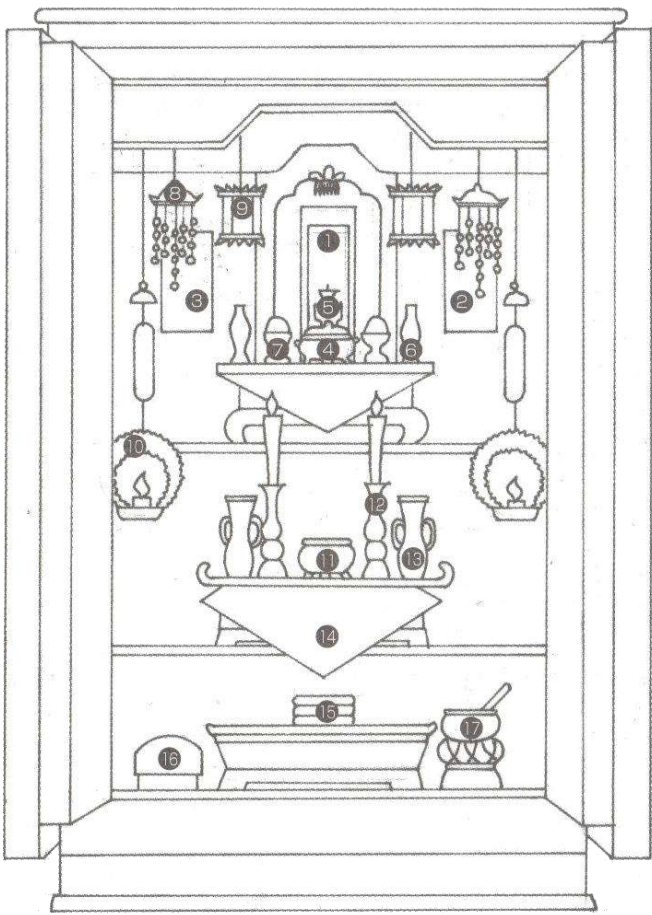


皆様はお仏壇にどのようなイメージをお持ちですか？ご先祖様の魂を祀るものとお考えの方が大半でしょうか。ここでは浄土真宗の教えをもとに、お仏壇とはどうあるべきものなかをともに考えたいと思います。

浄土真宗の私たちがよりどころとする御本尊 阿弥陀如来は、「必ず救う、われにまかせよ」と常に私たちに呼びかけておられます。私たちは前に往かれた方々のお導きによって阿弥陀様のおこころに出会い、この世を力強く歩む事が出来ます。ですから、私たちはそのおこころを表した阿弥陀様の絵像や、「南無阿弥陀仏」の六字の仏様をよりどころとし、日々報謝の気持ちを込めて礼拝します。

さて以上のことを考えれば、浄土真宗の私たちにとってお仏壇は決して先祖の魂を祀るものではなく、御本尊 阿弥陀如来を安置するものだと思えると思います。神棚に神様は祀つても、亡き人の魂を祀つたりはしませんよね？また何か不幸なことが起こったから神棚を設置するわけでもないかと思えます。同じように身近な方が亡くなつてからお仏壇を購入するのではなく、親鸞聖人のお念仏の教えをよりどころとするのならば、ぜひ本山より阿弥陀様をご自宅にお迎えして下さい。そしてお仏壇を購入し、そこへ阿弥陀様を安置して日々礼拝するのが本来の姿ではないでしょうか。

以下浄土真宗本願寺派の伝統的なお仏壇の荘厳法（おかざりの仕方）を掲載いたします。最近では時代の流れとともにお仏壇の形も多種多用になっています。あくまでこれを基本形と考え、お仏壇を購入検討される方は、先ずお手次のお寺にご相談下さい。次回以降、お仏壇のお飾りを詳しくみていきたいと思います。



- ① 阿弥陀如来(立像)
- ② 親鸞聖人
- ③ 蓮如上人
- ④ 火舎かしや
- ⑤ ろうそく立
- ⑥ 華瓶けびょう一対
- ⑦ 仏飯けびょう
- ⑧ 瓔珞けびょう
- ⑨ 灯籠りんとう
- ⑩ 輪灯りんとう
- ⑪ 香炉
- ⑫ ろうそく立
- ⑬ 花瓶かひん
- ⑭ 打敷うちしき
- ⑮ 正信偈、和讃ごぶんしょう
- ⑯ 御文章箱
- ⑰ りん

## お知らせ

## 第25代専如門主 伝灯奉告法要のご案内

伝灯奉告法要とは浄土真宗の宗祖親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」が第24代即如門主より第25代専如門主に伝えられたことを、阿弥陀仏の御前に告げられるとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを願いお勤まりになる法要です。

伝灯とは…親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」伝承し受け継ぐこと。

門主とは…西本願寺の住職さんであり、現東京・築地本願寺の住職さん。



## 法要期間中の本願寺

## 書院・飛雲閣

書院・飛雲閣などが特別公開！飛雲閣は豊臣秀吉が建てた聚楽第の一部とも言われております。金閣、銀閣とともに京都三名閣のひとつ！この機会にぜひ。

## 境内

境内では特設会場が設けられ、仏事相談や布教リレーなどが行われます。また、喫茶店や土産物販売など特設会場も設置、お茶をいただきゆったりとした時間を過ごしませんか？

その他にもイベント目白押し！なかなか行くことの出来ない京都の地に、伝灯奉告法要をご縁にまいりませんか？詳しくは、お手次のお寺さんにお尋ねください。

## 第25代専如門主 伝灯奉告法要

The Commemoration on the Accession of the Jodo Shinshu Tradition to the 25th Monshu Sennyō

## 法要期日

2016(平成28)年

第1期 10月1日(土)～ 8日(土)  
第2期 10月20日(木)～ 27日(木)  
第3期 11月4日(金)～ 11日(金)  
第4期 11月18日(金)～ 25日(金)



2017(平成29)年

第5期 3月7日(火)～ 14日(火)  
第6期 3月28日(火)～ 4月4日(火)  
第7期 4月11日(火)～ 18日(火)  
第8期 4月25日(火)～ 5月2日(火)  
第9期 5月9日(火)～ 16日(火)  
第10期 5月24日(水)～ 31日(水)

浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺

TEL 075-371-5181(代) ホームページアドレス <http://www.hongwanji.or.jp>

## 編集後記

お盆が過ぎて、お彼岸が過ぎて、報恩講。終われば年末。日々をこなすように生活している自分を、響流を読みながら振り返る。

清心寺 増田廣樹